

江戸時代の大名の呼び方といえば、すぐに「殿様」が浮かびます。しかし、これは各大名家によって様々で、必ずしも統一した呼び方があったわけではありませんでした。もちろん、藩主に直接呼び掛ける場合と、文書に記す場合とでも異なっていたと思われまます。

さて、津山松平藩では、この藩主の呼び方を變更したことがあります。津山松平藩では、藩主は「殿様」、藩主夫人は「御前様」、生まれたばかりの子どもは「御出生様」、名前が付くと「○○様」あるいは「若殿様」「姫様」と称されてきました。

ところが、天明7年(1787)2月2日の『町奉行日記』の記録によると、理由については説明されていませんが、それまで「殿様」と称していたものを、以後は「大守様」にするという通達が出されています。

町奉行仮役の松岡治部助は、直ちに郡代の岸権六に知らせます。そして、領民への周知について、大目付の黒田織江に相談すると「家臣たちにも正式には通達してないのでその必要はなく、領民から願書などが上がってくる時に心得ておいて、必要な場合には書き直すよう指示すればよい」との判断でした。

こうした対処の仕方からは、単なる事務的な変更であって、あまり重要なことではないように感じられますが、本当にそうだったのでしょうか。

「大守」というのは、古代の律令国家で、親王だけが「守」となれる親王任国であった上総国・常陸国・上野国の長官を指す言葉で、江戸時代に

津山城百聞録

～殿様と大守様～



▲町奉行日記 (天明7年)

は、国持大名を指して用いられる言葉でした。また、江戸時代の大名家には厳然とした格式があり、石高の多少だけではなく、一国の領主であるという「国持」には特別な意味がありました。このような慣例に従うならば、5万石の津山藩では大守の呼称はふさわしいとはいえません。こうしてみると、この呼称の変更は、事務的なものや気まぐれな思い付きとは考えにくいのです。この時の藩主康哉(5代藩主)は、若くして藩主になると、直ちに大胆な藩政改革を試みた人物で、学問や芸術にも関心の高い藩主でした。その康哉が、一般的に領主を表現する「殿様」から国主を意味する「大守様」に改めたことには、かつて越前国を領していた先祖への思いと、藩政改革の実現による藩の隆盛を願う気持ちが込められていたのではないのでしょうか。

8月中のひとの動き

人口	110,579人	(前月比+64)
男	52,763人	(同+52)
女	57,816人	(同+12)
世帯	43,648世帯	(同+51)

転入	311人	転出	276人
出生	103人	死亡	74人

(9月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



つぶ・や・き

編集室

10月からの職場を後にすることになりました。取材で出会った様々な人、行事、景色。県外で生まれた私にとって毎日が発見でした。そして津山のまちがますます好きになりました。今後も広報つやまを愛読ください。(X)



おばあちゃんの作ったさばずし、お母さんがつけてくれた口紅、そしてお父さんの法被姿…。秋晴れの澄んだ空を見ると幼いころの祭りの風景を思い出します。子どもの目には神輿やだんじり。んじりはとても大きく見えたものです。(和)

だんじりをもっと見たい・知りたい人はインターネットで「津山だんじり保存会館」を検索。このホームページは津山市出身の延原誠さん(岡山市)が作成されたもので、だんじりの歴史や大工職人の記事、写真などが満載です。(2)



つやま 広報

10 月号

平成19年
2007
636号

TSUYAMA CITY
Public Relations Magazine

編集・発行 (毎月10日発行)

津山市企画部市長公室 (市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

